

## 平成 20 年度 小中学生海外派遣事業

# オーストラリア AUSTRALIA ホームステイ HOMESTAY

政策調整課 内線314

今年で16回目を迎えた海外派遣事業。今年もたくさんの希望者の中から公開抽選で選ばれた児童・生徒が、8月18日から8日間、オーストラリアクイーンズランド州のタラバジェラ州立学校へ行きました。

参加児童・生徒は事前研修で英会話はもちろんオーストラリアの文化・習慣をしっかりと勉強し、ホストファミリーと生活を共にしながらタラバジェラ州立学校へ通いました。

オーストラリアの文化や生活習慣を経験し、たくましくなって帰国した児童・生徒たちのオーストラリアでの体験記を今月号から3回にわたりみなさんに紹介していきます。

参加した児童・生徒は、団長の穴沢登志子先生（扶桑中）をはじめ、以下の方々です。



出発式

氏名	学校	氏名	学校
酒井 良浩	扶 桑 中	早川久美子	扶 桑 北 中
杉本しずか	扶 桑 中	旭 はるな	扶 桑 北 中
森 こよみ	扶 桑 中	遠藤 直樹	高 雄 小
安井 舞	扶 桑 中	福澤 大樹	高 雄 小
市原 彰人	扶 桑 中	山田 翼	山 名 小
中村 遙果	扶 桑 中	堀場 彩人	扶 桑 東 小
則竹 郁代	扶 桑 中	須田穂乃花	山 名 小
澤 祐太	扶 桑 中	杉本ふみか	扶 桑 東 小
駒瀬 藍	扶 桑 中	穴沢登志子先生	扶 桑 中
渡辺 桃羽	扶 桑 中	山形弘通先生	扶 桑 北 中
		佐藤樹美先生	高 雄 小



英会話教室



「Feel Japan Feel Australia!」

扶桑中学校教諭

穴沢 登志子先生



▲ホストファミリーと

出発前の8日間の英会話教室、1週間の準備期間を経て、8月18日曜日3時53分、不安と期待の入り交じった顔で、18名教員3名は、教育長先生をはじめたくさんの人に見送られ、新幹線に乗りこみました。

添乗員さん引率のもと、スーツケースを押ししたり引いたり、汗をかきながら成田空港へ向かいます。小学生は自分の体重と同じぐらいの重さ、始めははききついていたものの、成田に着く頃はみなヘトヘトに疲れてしまいました。大丈夫かなあと不安な気持ちを吹き飛ばしてくれたのは、オーストラリアの青い空、澄んだ空気でした。見たこともない鳥コアラ、カンガルーを見たりさわったり、餌をやった頃には疲れも吹き飛びました。

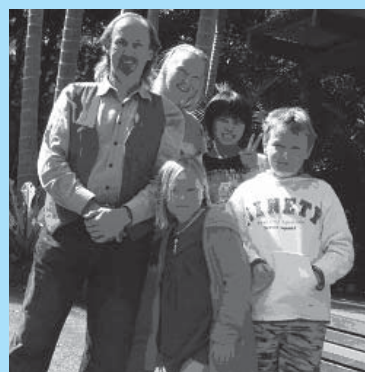
一人で5日間のホームステイでは、ホームシックになったり、体調を崩す子も多いと聞きます。しかし、扶桑町の海外派遣は、長い歴史があるため、現地スタッフがホストファミリーと連絡を取り合い、早めに職員や添乗員に知らせられます。職員や友達と日本語で話すことで、お互いの絆も深まり、最終日のパーティでは、日本の遊びや歌、武道の紹介、ソーランの踊りなど楽しく発表することができました。

英語が理解できず、困ったこともいろいろあったことでしょう。しかし、その子なりに一人で考えて行動した経験、感じたことが、自信につながり、帰りの飛行機は、充実した笑顔でいっぱいでした。貴重な経験をさせていだき、教育委員会、政策調整課の方々をはじめ、お世話になった皆様に感謝の気持ちでいっぱいです。

「Australian's Life!」

扶桑中学校3年

則竹 郁代 さん



▲ホストファミリーと

私は、8月18日〜25日にオーストラリアへホームステイに行きました。英語がちゃんと通じるか、きちんと聞き取れるか、すごく不安でした。

ホストファミリーに初めてあった時は、1週間大丈夫なのかとすごくドキドキしました。しかし、ホストブラザーやホストシスターとすぐに仲良くなれたので、その不安はなくなりました。私のホストファミリーは音楽一家で、朝から夜までずっと家の中に音楽が流れていました。

タラバジエラ小学校では2人のバディができました。すごくおもしろくて可愛い子でした。学校へ行くのが毎日楽しみでした。小学校で日本語の授業があり、みんな日本語がうまくて驚きました。

この一週間で二度とできない経験と思い出がたくさんできました。また、オーストラリアに行きたいです。

「楽しかったホームステイ」

扶桑中学校3年

中村 遥果 さん



▲ホストファミリーと

私は、8月18日から25日までオーストラリアへホームステイに行ってきました。

初めは不安でいっぱいでした。ちゃんと自分の言いたいことが通じるか、ホストファミリーと上手くやっていけるかとすごく心配でした。けれど、ホストファミリーはとても優しく、ゆっくりと分かりやすく話してくれたので、すごく不安が無くなりました。家族の事や友達の事などたくさん話し合うことができました。

オーストラリアの学校は、授業中に遊んだり、急に居なくなったりしてもよいことに、とても驚きました。11時からいもーニングティがあり、その時間はラUNCHを食べてもいいし、お菓子も食べてもよくて日本にはない時間なので、このことにもとても驚きました。バディはホストシスターだったので、とても安心しました。

この8日間とてもいい経験と思い出ができました。ホストファミリー、学校で仲良くなった子たちのごことは一生忘れません。

特集コーナー

町政コーナー

情報コーナー

保健コーナー



## 「Eternal Memories」

扶桑中学校3年

酒井 良浩 さん



▲ホストファミリーと

1日目、出発式の時僕はうれしくてたまりませんでした。不安な気持ちなど全くありませんでした。行きの新幹線や飛行機の中で友達と楽しく話をしました。

しかし、2日目、ホストファミリーと対面してから急に不安になってきました。英語は今まで勉強してきたつもりでしたが、いざ外国で使ってみると音のにごりなどで通じなかつたり聞き取れなかつたりしました。この時から僕はあまり話しかけることができず、話しかけられる一方になりました。でも、毎日、ホストファミリーや小学校の子たちと過ごす内にだんだん慣れてきて、会話ができるようになりました。

最後の日、僕は積極的にフェアウエルパーティーに参加しました。みんなと楽しく過ごし、楽しく別れることができました。これらの思い出を心の中に永遠に残しておきたいです。

## 「コミュニケーション」

扶桑中学校3年

澤 祐太 さん



▲バディと一緒に

僕の考えは、とても甘かったようです。僕はオーストラリアに行って、少しずつ日本語が通じらうと心のどこかで思っていました。もちろん、そんなはずはなく、とても驚きました。

日本での英語の授業では、外国人の先生が来ることがあっても、自分の周りの人が全員外国人ということではなかったので、分からない事があっても、すぐ日本語で聞くことができました。

でも、オーストラリアでは、周りはみんな外国人。しかも、日本語をほとんど知らない人達だったので、聞きたいことがあっても英語を使うしかありませんでした。英語は学校で習っていますが、まだ日本語のように使いこなせないのです。たまに分からない表現ができて、なかなか表現の仕方が思いつかず、結局、今知っている表現を組み合わせ、ジェスチャーを混ぜてなんとか自分の思いを相手に伝えていました。でも、自分の思いをそのまま相手に伝えることが出来なかつたという、悔しい思いが残りました。

もつと英語ができるようになったら、自分の思いをそのまま伝えることが出来るのではないのかとこのホームステイを通して感じました。

## 「海外派遣、オーストラリアに行って」

扶桑中学校3年

渡辺 桃羽 さん



▲ホストマザーと猫と一緒に

海外へ行くことも飛行機に乗ることも初めてでした。飛行機は、初めてジェットコースターに乗った時のような感じがしました。

オーストラリアに着いた時、思ったよりも寒かつたことと道路が広く、家々の屋根の色は明るいものが多くきれいなことが印象的でした。

一番心に残ったのは、ホームステイとフェアウエルパーティーです。ホームステイ先の人思った以上に早く英語をしゃべるので、初めのうちはうまく聞き取れませんでした。しかし、日がたつにつれ聞き取れるようになり、ホストマザーやホストファザーに自分のことをたくさん話せるようになりました。

小学校の生徒たちはみんな元気で、バディの子には、いろいろなところを案内してもらいました。授業中、勝手に外に出たり、お菓子を食べたりしているのには驚きました。

フェアウエルパーティーでは、竹とんぼを紹介しました。うまく飛ばなかつたけれど、みんながとても興味を持ってくれたのがうれしかったです。

「ホストファミリーに会いに行くぞー!」

高雄小学校6年  
福澤 大樹 さん



▲ホストファミリーと

出発前から、ホストファミリーがどんな人なのか、どんな家なのか、とても不安で一週間大丈夫かなあと思っていました。

でも、初めて対面したときに、ホストマザーのあまりにすごい笑顔に不安がいつきにとび、この人達なら大丈夫だと思いました。それでもはじめは何を言っているのかわからないことばかりで、英語にとってもつかれました。

しかし、マザーや息子のケイジとごはんを食べたり、ゲームをして遊んだり、映画や遊園地に行ったり行ってもらったりするうちに、どんどん楽しくなってきました。その中でも一番の思い出は、オーストラリアは冬なのに、プールに入ったことです。ふるえていたら、マザーに「RUN RUN」と笑顔で言われてしまいました。

英語がもっともつとわかって思うように話せたら何倍も楽しいだろうと思いましたが、だから勉強して絶対にまたオーストラリアに行って、お世話になったホストファミリーに会いたいです。

「Australia Homestay」

山名小学校6年  
山田 翼 さん



▲パディと一緒に

正直言って、ぼくは英語の力がない。だからオーストラリアに行く前、「ハァ。」とため息ばかりついていた。心配ばかりしていたのだ。

しかし、いざオーストラリアへ行ってみるとなんとかなることに、すぐくびくくりした。簡単な日本語は通じる。それに英語もほとんど聞き取ることができた。ぼくはほとんど、イエス・ノー・オーケー・サンキュー・ソーリー。この5つの言葉しか使つてないような気がする。それに日本で使っている言葉には英語が多いことにも気づいた。だから覚えやすかった。

オーストラリアと日本の違いで驚いたこと。それは海の青さ、砂の白さ、気候が真逆なこと。紫外線が強いので日焼け止めクリームがかかせない。結構真っ黒になるのかなあ、と思っていたけれど意外に黒くならなかった。すごく楽しくて面白い思い出がたくさんできてよかった。できるならまたオーストラリアへ行きたい。

「自然を体感したホームステイ」

扶桑東小学校6年  
堀場 彩人 さん



▲ホストファミリーと

僕はホームステイに行き、とても良い経験をしたと思います。オーストラリアはとても良いところで住んでいる人はとても優しい人ばかりで、いろいろと親切にしてくれたり、自然を愛していて動物を飼っていたり、庭の裏に川が流れていてそこで釣りをしたりしていました。

オーストラリアはとても動物が多くてコアラやカンガルーをはじめ、ワラビーやペリカンなどがいました。

